

報道関係者 各位

2017年7月5日 日本科学未来館

## 世界の科学館を牽引するリーダーらによる国際会議、アジア初開催 世界科学館サミット2017(SCWS2017)

### 11月15日(水)～17日(金)、主なセッション・招待講演者および併催企画が決定

日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利衛)が、2017年11月15日(水)～17日(金)の3日間、アジアで初めて開催する「世界科学館サミット2017(SCWS2017)」について、主なセッション・招待講演者および併催企画が決定しました。

世界科学館サミットは3年に一度開かれる国際会議で、世界の科学館を牽引する数多くのリーダーをはじめ、教育関係者、政策関係者、企業関係者らが一同に会します。科学技術への市民の関与について、また急速に変化する社会のなかで科学館が果たすべき役割について、議論し提言を行っています。

今回の世界科学館サミット2017は、「世界をつなぐー持続可能な未来に向かって」をメインテーマとし、地域レベルから地球規模の課題まで幅広くとりあげ、科学館が他の業界組織と連携した新しいモデルへと変革し、持続可能な社会の実現に貢献していくための戦略について多様なセッションにて議論します。さらに、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、科学館を重要なプラットフォームとして位置づけ、課題解決への深い理解と創造性を生み出していくための方法について考えます。

招待講演では、世界的に活躍している建築家の安藤忠雄氏、ノーベル生理学・医学賞受賞者の山中伸弥氏、持続可能性の研究分野で注目を集めるヨハン・ロックストローム氏、英国食品基準庁の初代長官としてBSE問題に取り組んだジョン・クレブス卿など、世界を代表する識者をお招きし講演いただきます。

また、本サミットの併催企画として、2017年11月11日(土)より特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」を開催します。アジアの食文化の基盤である米を切り口に、持続可能な農業、さらには持続可能な社会を構築するための科学技術について広く情報を発信します。

持続可能な社会を実現するには、一人ひとりが新しい習慣を身につけ、変わっていく必要があります。本サミットでの議論を通し、個人の生活と科学を具体的に結びつけ変化を促すために科学館ができること、そして、個人と科学技術の新しい関係性を見いだすための科学館の役割について提言します。

#### ■ 概要 ■

会議名称	世界科学館サミット 2017 [Science Centre World Summit 2017 (SCWS2017)]
開催日程	2017年11月15日(水)～17日(金)
開催場所	日本科学未来館
特設サイト	<a href="https://scws2017.org/jp">https://scws2017.org/jp</a>
主催	日本科学未来館
共催	文部科学省
プログラム主催	ASPAC、ASTC、Eccsite、NAMES、RedPOP、SAASTEC(世界各地の科学館の国際組織)
協賛	味の素株式会社、株式会社カネカ、株式会社リコー、花王株式会社、日本緑茶センター株式会社
後援	内閣府、外務省、環境省、日本学術会議、日本学術振興会、国際交流基金、日本経済団体連合会、American Association for the Advancement of Science (AAAS), EuroScience

※本サミットの参加には、事前登録および参加費が必要となります。(詳細はホームページをご参照ください。)

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL <a href="http://www.miraikanjst.go.jp">http://www.miraikanjst.go.jp</a>	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: <a href="mailto:press@miraikanjst.go.jp">press@miraikanjst.go.jp</a> TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

## 《SCWS2017 主なセッション》

3つのトピック(「グローバル・サステナビリティ」、「ともに創り、ともに変わる」、「一人ひとりが科学に関わるために」)について40以上におよぶセッションを開催し、聴講者も巻き込みながら議論します。(下記はセッションの抜粋となります。全セッションの詳細はホームページをご覧ください。)

### 1. グローバル・サステナビリティ

- ・科学館の活動におけるグローバル・サステナビリティのための計画は？
- ・サステナビリティのための「システム思考」
- ・STEAMデータの可視化: 賢明な意志決定のために (STEAM: Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics)
- ・啓発から行動へ! 地球変動とフューチャー・アース
- ・自然災害や人為的リスクについてのコミュニケーション

### 2. ともに創り、ともに変わる

- ・若者のエンパワーメント
- ・大規模な国際研究プロジェクトなどビッグ・サイエンスのコミュニケーション
- ・科学技術における共創
- ・持続可能な地球のために道を開く: 産業界と科学館の連携
- ・科学館: 2026年とその先

### 3. 一人ひとりが科学に関わるために

- ・コレクティブ・エンゲージメント: イノベーションやパートナーシップはどのように人の関わり方を変えられるか
- ・アフリカにおける科学館の発展: 機会の平等とグローバル・サステナビリティのために
- ・科学、政治とソーシャルメディア
- ・ミュージアムは人々の行動をいつ変えられるのか?
- ・社会的、教育的な弱者を科学や教育とつなぐ

上記トピックの他、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)に関連するセッションを開催します。

- ・男女の平等と、格差の是正
- ・都市の持続可能な将来のために、科学館はどのように貢献できるか
- ・国連SDGsのためのパートナーシップ

## 《SCWS2017 主な招待講演者》

建築、生命科学、地球環境、食料などの分野から、世界を代表する識者にご講演いただきます。それぞれの視点や経験から、3日間の議論へのヒントや科学館への期待などについてお話しいただきます。

- ・安藤忠雄 [建築家/東京大学名誉教授]
- ・ゴードン・マクビーン [国際科学会議(ICSU) 会長/ウェスタン大学(カナダ)名誉教授]
- ・ヨハン・ロックストローム [ストックホルム・レジリエンス・センター所長/ストックホルム大学教授]
- ・スマヤ・エル＝ハッサン王女 [ヨルダン・ハシェミット王国立科学協会 会長]
- ・ジョン・クレブス卿 [オックスフォード大学ジーザスカレッジ 名誉フェロー、前学長]
- ・パバン・シュクデフ [国連環境計画(UNEP)親善大使/GIST(Green Indian States Trust)創設者・理事]
- ・トーマス・E・ラブジョイ [ジョージ・メイソン大学環境科学・政策専攻教授]
- ・山中伸弥 [京都大学IPS細胞研究所(CiRA) 所長・教授]

※上記は現段階で決定している主な講演者です。その他、調整中の講演者につきましては、決定次第ホームページにて随時更新いたします。

### ＜参加登録情報＞

2017年7月15日までにお申し込みされた方には早期割引料金[3日間 75,000円(税込)]が適用されます。

※通常料金95,000円(税込)

## 《SCWS2017 併催企画》

アジア初開催となる世界科学館サミット2017では、日本をはじめアジア地域の食文化を支える「米」を切り口に特別展示を併催し、持続可能な農業、さらには持続可能な社会を構築するための科学技術について広く情報を発信します。

### <SCWS2017併催企画>

#### 特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」

##### ■概要■

開催期間	2017年11月11日(土)～2018年1月8日(月・祝) (※終了日は予定)
開館時間	午前10時～午後5時(入館券の購入は閉館時間の30分前まで)
開催場所	日本科学未来館 1階 コミュニケーションロビー
休館日	毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は開館)、年末年始(12/28～1/1) 11月15日(水) ※SCWS2017特別行事のため休館
入場料	無料(ただし、常設展・企画展への入場には別途料金が必要です)
主催	日本科学未来館
監修	佐藤洋一郎氏(人間文化研究機構 理事)

明日も、100年先も、そして1000年先にもおいしいお米を食べるために、いま私たちができることとは何でしょうか？数千年にわたってアジア各地の田んぼのなかで育まれてきた「つながりのシステム」(=動植物や人が一体となった循環システム)と、高い生産性を実現した近代農業の特徴を踏まえ、最先端の科学技術をどのように使い、私たちがどんな選択をしていくべきかを探ります。地球の食卓がいつまでも豊かであるようにとの祈りをこめて、未来への種をまく特別展示です。

##### ■展示構成■

#### つながりのシステム

アジア各地にある水田地域の風土に根ざした多様な風習、料理、信仰などには、自然資源を消費せず、米を作り続ける精神が息づいています。水田を介して人と動植物とが一体となった循環システムを「つながりのシステム」と捉え、具体的な知恵や人間の営みを紹介します。

#### とぎれたつながり

近代の農業は、化学肥料の活用や機械化などにより、より多くの人口を養う生産性を実現しました。化石燃料への高い依存や、田んぼの生物多様性の劣化などの課題も含め現状を認識します。

#### つながりのリ・デザイン

世界人口が増えるとともに都市化が進んでいる現代社会の構造を踏まえ、21世紀型の「持続可能な食糧生産」の方向性を探ります。「地球」と「人類」の共生という視点から、ブレイクスルーになり得る考え方や科学技術を中心に紹介します。

#### どんなお米をえらぶ？

私たち個人としては、おいしいごはんを手軽に食べたいと思っているのではないのでしょうか。「地球」や「人類」も大事だけど、「個人の幸せ」も大切にしたい。1人の消費者としてどんなお米を食べたいのか、考えます。